

2024年4月24日 千葉大学アカデミック・リンク・センター
2024年度第1回ALPSセミナー
「教材開発支援の最前線：九州大学における電子教材開発の取り組み」
参加者アンケート（オンライン：Zoom）
当日参加者数： 50名 アンケート提出数： 24件

本セミナーについて、参加者の皆様から寄せられたご意見・ご感想を以下に掲載いたします。なお、原則原文のまま掲載しておりますが、個人名・組織名が特定できないよう事務局で若干の調整をおこなっておりますことをご了承ください。

1. 本日のセミナーの満足度はどの程度ですか。

- ・満足した 13名
- ・まあ満足した 10名
- ・どちらとも言えない 1名
- ・やや不満である 0名
- ・不満である 0名

2. 1. でそのように回答した理由をお書きください。

満足した

- ・ 具体的で詳細な説明を聞くことが出来たため、実際のプロジェクトの流れが想像しやすかったです。
- ・ 新しい手法とそれを進めるための know how を教えていただきました。
- ・ さまざまな教材が作られ、オープンにされている。
- ・ かなりレベルの高い取り組みであり、教材開発センターが図書館付設であるということがすばらしいと思いましたので。
- ・ 具体的な取り組みの例が多く紹介された。
- ・ 制作の裏話や実現する仕組みを伺えたため。
- ・ 様々な形で電子教材がつくられていることを知ることができました。
- ・ JMOOC などのツールや本学でも活用できそうなツールが世界中にたくさんあることがわかり、宣伝すれば、学生の学習支援も可能であることに希望を感じました。また、ゲーム開発に至るまでの話を聞いたのが貴重な経験でした。
- ・ 具体的な事例を知ることができたため。
- ・ 自分の所属している機関との非常に大きな差を感じさせられた。自分たちの担当者にできる限りのことをやってもらいたいが中々難しいので、最初は利用させていただくところとも感じている。

まあ満足した

- ・ 九州大学の取組を学ぶことができた
- ・ 期待していたとおりの内容だったから。
- ・ 事例紹介が複数あったため
- ・ かねて注目していました九州大学での図書館主導の教材作成に関する取り組みについて分かり易いご説明をしていただきました。ありがとうございました。
- ・ 詳細な事例を知ることができた。
- ・ これまでの様々な取り組みを紹介いただいて参考になった

どちらとも言えない

- ・ 本学が文系大学であったため活かせる事例が少なかったこと、本学にはそのような開発を進める教員・

スキルがないため、直ぐに本学に活かすことができないため。しかし多くのアイデアがあり、必要に応じ業者と連携し進めることができそうなものもあった。

3. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- 最後の質疑応答時にあった通り、各大学で開発したコンテンツを大学間で利活用出来れば日本の教育・研究に大いに役立つのではないかと考えます。
- オールジャパンで教材開発がなされており、勇気づけられた。
- 電子教材をつくる必要性、そのためのいろいろな技術、各部局の専門家の参加（専門家の視点）等の協力体制が重要であることが分かった。
- ①学生や部局を取り入れる成功事例を知れたこと。
②どのような教材を作っているか知れたこと。
③外部で利用できる教材を質保証し、学内で利用可能にするという考え方を知れたこと。
- 電子教材開発者向け講習会があるようなので、参加してみたいと思います。
- 組織としての取り組み、さらに今後の方向性についても示唆に富む内容であったと思います。
- 電子教材に関するアンケートを取ることで、興味がありそうな教員を発掘するという考え方。
- 教材の幅がたいへん広いこと（中学生や高校生向け、一般者でも閲覧可能、など）
学生が関わっているものがあること、それらを一覧できる仕組みがあることが素晴らしかった。
機器の充実だけでなく、組織があること、講習会などサポート体制もあることから、人材の確保は重要であると痛感しました。
- 九州大学さんでは図書館が主体となり、様々な分野の教材が作成されていること。
- 協力してくれる教員が大事だと思った
- 教員の方が学生さんと協同して多くの有益なことを成し遂げる組織がかなり昔から機能していたことは、理解や発見ではないが、大変感動した。日本の教育業界も素晴らしい部分があると感じることができた。
- 協力を推進する部署や教員の必要性

4. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- 電子教材をつくるためのいろいろな技術
- 生成AIの利用などについても伺って見たかったです。また、データ駆動で教育を変えるという点が気になりました。
- 著作権の問題や実際の作り方など知りたいことが分かりました。
- 予算関連で、文科省の補正予算事業採択はご説明ありましたが、経常予算獲得等でのご苦労はなかったのかと気になりました。
- 上層部の理解があつてこそ、と思ったため、スタートした経緯（トップダウンだったのか、など）が気になりました。
- 特になし（同様のもの3件）

5. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- FD, IR
- IT (DX) に特化した学部のない単科大学だと、専任の教員やスタッフの配置・育成が難しい
- 学生さんの意欲を引き出す取り組み
- パワーポイントなどもそうですが、実際に作成してみて改良しながらより良いものができる気がしました。作成してみて初めて、使用する側のメリットに気が付けることもあると思いました。私は、アンケート（いじめアンケートや不登校アンケート）などを電子教材で作成してみたいと考えています。ペ

一パーレスになるし、変容なども分かりやすいと思っています。

- 【教育学習支援のために必要な資質や能力】

魅力的な教材を作成するための生成AIやプログラミング技術
便利なツールを効果的に広報するためのマーケティングやSNS運用

- 【自館での取り組み事例】

本学では看護学部1年生の授業の一コマを使い、図書館ガイダンスや文献検索を行っています。
昨年まではクイズ方式や探検方式、今年はFormsを使用した文献検索を予定していますが、
図書館のリソース利用率向上には結びついておりません。

- 【他大学の事例】

- ゲーム型図書館利用教育コンテンツ「TOSHOKAN QUEST」
城西大学水田記念図書館様が作成されたコンテンツをみて、電子教材作成に興味を持ちました。

- 教育・学修支援は誰もおいていかないことが一番大切だと感じています。

そのため、入門～応用までレベルわけされた取組がされていく中で、フォローアップや問合せ対応にもある程度の労力をかけるべきと感じている。また、学修者同士での助け合いが出来る場があると良いと感じています。

6. 本日の内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- セミナー開催、お疲れさまでした
- どうもありがとうございました。
- 一旦閉会後の座談会も学びが多かったです。こういう時間も引き続きあると嬉しいです。
- とても勉強になりました。MoocやYou Tubeなど実際に見たいです。電子教材の最先端の教材を見せていただきありがとうございました。
- 千葉大のセミナーは比較的こちらが期待している内容をうまくテーマとして取り込んでいただいています。今後ともご継続宜しくお願い致します。
- 先進的な例を知ることができました。人材の確保が重要であると、あらためて感じました。ありがとうございました。
- いつもとても有益な情報提供・共有どうもありがとうございます。
- 特になし（同様のもの2件）

7. ご所属について、該当するものを選んでください。

・千葉大学に所属 6名・千葉大学以外に所属 18名

8. 身分について、該当するものを選んでください。

・学生 0名 ・教員 5名 ・大学職員(図書館職員を除く) 7名 ・図書館職員 8名
・その他 4名

9. 千葉大学アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けします。「登録しない」を選択してください。)

・登録する 10名 ・登録しない 14名